

官報

號外

昭和十年三月三日

○第六十七回貴族院議事速記録第十三號

昭和十年三月二日(土曜日)午前十時十九分
開議

議事日程 第十三號

昭和十年三月二日

午前十時開議

第一 兵役法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 勞働者災害扶助法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

第三 工場法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第四 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマ

ス

(角倉書記官朗讀)

本日內閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付
ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十七回帝國議會內務省所管事務政府
委員

社會局書記官 北岡 壽逸君

○議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開
キマス、日程第一、兵役法中改正法律案、
政府提出、第一讀會

兵役法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十年二月二十七日

內閣總理大臣 岡田 啓介

海軍大臣 大角 岑生

陸軍大臣 林 銑十郎

兵役法中改正法律案

兵役法中左ノ通改正ス

第十一條 現役兵ニシテ青年學校ノ課程

又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修メ

タル者ノ在營期間ハ六月以内之ヲ短縮

スルコトヲ得

前項ニ規定スル課程ノ修得ノ程度、認

定及在營期間短縮ニ關スル事項ハ勅令

ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條中「翌年一月中旬ニ」ヲ「其ノ年

十一月中旬ニ」、「其ノ年一月中旬ニ」ヲ「其

ノ前年十一月中旬ニ」ニ改ム

第三十九條第一項第五號中「感化院」ヲ

「少年教護院」ニ改ム

第五十一條第一項中「徵兵検査ヲ行フ」ノ

下ニ「戸籍ノ記載ノ錯誤ノ爲徵兵検査ヲ

受クベキ者ニシテ之ヲ受ケザリシモノヲ

發見シタルトキ亦同ジ」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同

等以上ト認メラレタル訓練ヲ修了シタル

者ノ在營期間短縮ニ關シテハ仍從前ノ例

ニ依ル

(國務大臣林銑十郎君登壇)

○國務大臣(林銑十郎君) 兵役法中改正法

律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ説明イ

タシマス、近ク青年訓練所ト實業補習學校

トヲ併合イタシマシテ、新ニ青年學校ヲ設

ケルコトトナリマシタノデアリマスガ併此

、合ノ目的竝ニ新舊施設ノ内容ヨリ見マシ

テ、新ニ設ケラレル青年學校ニ付テモ、青年

訓練所ニ於ケルト概ネ同様ノ趣旨ニ於キマ

シテ、在營期間ノ短縮ノ制ヲ設ケルコトガ適

當デアルト存ジマスノデ、是ニ關スル所要

ノ改正ヲ致シタイト思ヒマス、次ニ壯丁ノ

徵兵適齡屆ガ一月ノ末マデニ提出スルコト

ニナツテ居リマスノニ對シマシテ、市町村長

ガ壯丁ノ人員ヲ調査イタシマスノガ一月ノ

初メデアリマシテ、此兩者ノ間ニ連絡ガナ

イノデアリマスガ、徵集準備上、市町村ガ

壯丁ノ人員ヲ調査イタシマスルニ當ツテ、單

ニ戸籍ノ上ダケデハ處置シ得ナイ事項ガ増

加シテ參ツテ居リ、市町村長ハ其ノ資料ニ

困難ヲシテ居ル實情ニアリマスノデ、此際

徵兵適齡屆ヲ、市町村長ガ壯丁人員ヲ調査

スル前ニ提出セシメテ、之ヲ調査ノ資料タ

ラシムルコトガ適當ト考ヘルノデアリマス、

以上二點、今回本法律案ヲ提出スルニ至リ

マシタ主要ノ事項デアリマシテ、其他ハ從

來ノ經驗ニ基キマシテ明ニシテ置イタ方ガ

宜シイト云フ事項、及ビ他ノ法令ノ改廢ニ

伴ヒマスル事項ヲ附加イタシタノデアリマ

ス、慎重審議ノ上ニ協賛アラムコトヲ希望

イタシマス

○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナ

ケレバ、特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ

朗讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)

兵役法中改正法律案特別委員

侯爵山內 豐景君 子爵立見 豐丸君

男爵鍋島 直明君 男爵有地藤三郎君

中村純九郎君 田所 美治君

松本 學君 三木與吉郎君

平沼 亮三君

○議長(公爵近衛文麿君) 日程第二、勞働

者災害扶助法中改正法律案、日程第三、工

場法中改正法律案、日程第四、鑛業法中改

正法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ三

案ハ之ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議

ゴザイマセスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛文麿君) 御異議ナシト認

メマス

勞働者災害扶助法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十年三月一日

內閣總理大臣 岡田 啓介

內務大臣 後藤 文夫

官報號外

昭和十年三月三日

貴族院議事速記録第十三號

議長ノ報告

會議 兵役法中改正法律案

勞働者災害扶助法中改正法律案其ノ他二件

一二九

勞働者災害扶助法中改正法律案

勞働者災害扶助法中左ノ通改正ス

第一條第一項第二號(ロ)ヲ左ノ如ク改ム

(ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工

事竝ニ此等ノ事業ニ於ケル使用中ノ工作物(作業ノ運行ニ直接關係ナキモノヲ除ク)ニ關スル注文ニ

依ル工事

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ專ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者

モ亦其ノ事業ニ付事業主トス船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ作業(動力

ニ依リ運轉スル揚重機ヲ用フルモノニ限ル)ニシテ注文ニ依リ爲サルモノ

又ハ同項第二號(ロ)ノ注文ニ依ル工事ニ付テハ其ノ注文者(數次ノ注文ニ依ル

場合ニ於ケル上級注文者ヲ含ム)モ其ノ注文ニ依ル作業又ハ工事ニ關シ亦同

ジ

前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者

ニ對シ、尙數次ノ注文ニ依ル場合ニ於テハ其ノ下級注文者ニ對シテモ先ヅ催告

スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得前條第三項但書ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ二 事業主本法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責

ヲ免ル

事業主及勞働者ノ出捐スル共濟組合勅令ノ定ムル所ニ依リ事業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ事業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第四條ノ三 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第四條ノ四 本法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勞働者災害扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ

第四條ノ三ノ規定ヲ適用ス

工場法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十年三月一日

内閣總理大臣 岡田 啓介
內務大臣 後藤 文夫

工場法中改正法律案

工場法中左ノ通改正ス

第十五條ノ二 工業主前條ノ規定ニ基キ

扶助ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

工業主及職工ノ出捐スル共濟組合勅令ノ定ムル所ニ依リ工業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第十五條ノ三 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第十五條ノ四 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工場法第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第十五條ノ三ノ規定ヲ適用ス

鑛業法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十年三月一日

内閣總理大臣 岡田 啓介
內務大臣 後藤 文夫

鑛業法中改正法律案

鑛業法中左ノ通改正ス

第八十條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第八十條ノ二 鑛業權者前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共濟組合勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權者ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第八十條ノ三 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時効ニ因リ消滅ス

第八十條ノ四 第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鑛業法第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第八十條ノ三ノ規定ヲ適用ス

(國務大臣後藤文夫君演壇ニ登ル)

○國務大臣(後藤文夫君) 只今議題トナリ

マシタ勞働者災害扶助法中改正法律案、工場法中改正法律案、竝ニ鑛業法中改正法律案ノ三案ヲ一括シテ、提案ノ理由ヲ御説明

申上ゲタイト存ジマス、勞働者災害扶助法

ハ土石砂鑛採取事業、土木建築、鐵道、軌道
若クハ乗合自動車ニ依ル運輸事業、竝ニ貨
物積卸ノ事業等ニ適用セラレテ居ルノデア
リマスガ、本法施行後ノ情況ヲ見マスルト、
鐵道、軌道若クハ索道ノ運輸事業又ハ水道、
電氣若クハ瓦斯ノ事業ニ於ケル各種ノ工事
ニ付キマシテハ、其事業主ノ直營工事ニ付
テノミ本法ノ適用ヲ見テ居リマスル爲ニ、
其事業ノ運營上普段行ハレテ居リマスル修
理、其他ノ保存的工事デアリマシテモ、若
シソレガ直營ノ事業デナク、注文ニ依ッテ爲
サル場合ニハ、其工事ハ本法ノ適用外ニ
アルコトナリマシテ、彼此均衡ヲ失ヒマ
スルノデ、改正法案ニ於キマシテハ、後者
ニ於テモ本法ヲ適用スルコト致シマシテ、
不合理ヲ除カムトシタ次第デアリマス、次
ニ注文ニ依ル作業若クハ工事ト云フモノノ
中デ、船舶貨物ノ積卸作業、又ハ鐵道、軌
道若クハ索道ノ運輸事業、水道、電氣若ク
ハ瓦斯事業ニ於ケル保存的ノ工事ニ於テ
ハ、其作業若クハ工事ガ其事業ノ運營上極
メテ密接ナ關係ガアリマスル、而モ其作業
若クハ工事引受ヲシテヤリマスル者ノ中ニ
ハ、資力ノ薄弱ナル者モ少クアリマセヌノ
デ、勞働者ノ災害扶助ノ全キヲ期スル爲ニ、
扶助責任者ヲ單ニ勞働者ノ直接ノ使用者デ
アル者ノミニ止メズ、斯カル作業若クハ工
事ノ注文者ニモ及ブト云フコトニ致シタノ
デアリマスデ、勞働者ノ災害扶助ト損害賠
償トノ關係ニ付キマシテハ、勞働者災害扶
助法施行令第三條ノ扶助ヲ受クベキ者ハ、

民法ニ依ッテ同一ノ原因ニ付テ損害賠償ヲ
受ケマシタ時ニハ、事業主ハ扶助金額カラ
其金額ヲ控除スルコトガ出來ルト云フ規定
ニナッテ居リマスルケレドモ、多クノ場合ニ
於テハ、本法ニ基ク扶助ハ民法ニ依ル損害
賠償ニ先ッテ迅速ニ爲サレテ居ルト云フヤ
ウナ關係ガアリマスルノデ、改正法案ニ於
キマシテハ、事業主ガ成規ノ扶助ヲ爲シタ
ル場合ハ、其爲シタル扶助ノ價額ノ限度ニ
於テ、民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ルルコ
トトシテ、事業主ガ一原因ニ付テ二重ノ負
擔ヲ受クルコトナカラシメムト致シタノデ
アリマス、又扶助請求權ノ性質ニ鑑ミマシ
テ、特ニ二年ノ短期ノ時效ヲ設ケマシテ、
ソレト共ニ其權利ノ讓渡差押ヲ禁ズルコト
ト致シマシタ、工場法中改正法律案竝ニ鑛
業法中改正法律案ハ前段ニ述ベマシタ趣旨
ト同様ノ理由ヲ以チマシテ、職工又ハ鑛夫
ノ災害扶助ト損害賠償トノ關係其他ニ付テ、
勞働者災害扶助法ノ改正案ト足並ヲ揃ヘタ
改正ヲ致シタ次第デアリマス、以上ガ三法
改正法律案ノ要旨デゴザイマス、何卒御審
議ノ上御協賛アラムコトヲ切望イタシマス
○議長(公爵近衛文麿君) 別ニ御質疑ガナ
ケレバ、三案ノ特別委員ノ氏名ヲ、書記官
ヲシテ朗讀イタサセマス

〔小林書記官朗讀〕
勞働者災害扶助法中改正法律案外二件特
別委員
公爵島津 忠承君 伯爵松本 宗隆君
子爵野村 益三君 柴田善三郎君

男爵關 義壽君 安立 綱之君
大塚 惟精君 細田安兵衛君
青木才次郎君

○議長(公爵近衛文麿君) 報告ヲ致サセマ
ス

〔瀨古書記官朗讀〕

本日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ
氏名左ノ如シ
北洋漁業取締法案特別委員會

委員長 伯爵有馬 賴寧君
副委員長 男爵赤松 範一君
國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル
法律案特別委員會

委員長 伯爵樺山 愛輔君
副委員長 男爵高木 喜寬君
造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル
建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法
律案特別委員會

委員長 伯爵二荒 芳徳君
副委員長 眞野 文二君

○議長(公爵近衛文麿君) 次會ノ議事日程
ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、
是ニテ散會イタシマス
午前十時三十三分散會

